

年月日

23

08 30

ページ

24

N.O.

東北ボーリング 仙台市



新本社棟

新本社棟でZEB実証

環境と防災、そして教育にも貢献する事業所として地域に根ざす動きも出てきた。東北ボーリング（仙台市若林区、熊谷茂一社長）は地中熱と太陽光を利用したゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）の新本社棟を稼働した。地中熱では一般的な「クローズドループ」方式に加え、地下水をそのまま利用する「オープンループ」方式を宮城県内で初めて採用。本社棟を実

証実験場およびショールームとして活用し、その普及と実用化を目指す。

木造2階建てで延べ床面積は倉庫棟、サービスヤードを含め約964平方㍍。建物や窓の高気密・

高断熱化、直射日光の遮蔽などを施し、省エネルギーを徹底。屋上に設置する出力36・96㎾の太陽電池と地中熱の空調により、エネルギー使用量で3%の余剰を生み出す。余剰電力は容量32㎾時の蓄電池に蓄え、震段は電気自動車の充電に活用。災害時には防災拠点として地元市民を受け入れ、その電源として利用する。

また木造社屋には宮城・石巻産の木材をふんだんに採用。県産材で地元林業の再興を支援するほか、地元教育機関と連携した「木育」活動にも参画。宮城大学や仙台工業高校など地元の学生を受け入れている。ほかにも視察者は行政や企業・団体関係者ら約700人にも上る。「当社の使命は、この木造ZEB社屋を広く普及させること」（熊谷社長）といつづ、環境への理解を深めることにも一役買っている。

地下水利用 木造社屋が稼働